

SANS FRONTIÈRES

vol.61

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryo.ac.jp/>

医歯薬講座 国際医療福祉大学出張講義(1年生)



5月25日(木)、医歯薬コース1年生を対象に、国際医療福祉大学の出張講義が実施されました。

「医療系」とか「チーム医療」という言葉は聞いたことがあっても、具体的な知識が少ない、というのはありがちなことです。そこで、医歯薬コースでは、1年生を対象にした講座を設定しています。今回の講座の目的は、医療職にはどんな職種があって、お互いに関係しているのか、概略を知ることです。

講師は国際医療福祉大学、医療福祉学部医療福祉マネジメント学科の教授、山本康弘先生。

「きっと見つかる！ 自分にあった医療職 -医療福祉のスペシャリスト-」というテーマで、様々な職種とその仕事内容について講義していただきました。

生徒たちは資料を参照してメモを取りながら、熱心に聴講していました。「初めて知った医療職があった」「こんなにも多くの人々が協力してチーム医療が行われているのを知った」など、新しい知識を得たという生徒が多かったようです。

理想や憧れを持つことは大切ですが、漠然としたイメージや思い込みだけで進路を選択するのは危険です。様々な学科や医療職について正しい内容を知り、進路選択の一助にってもらうのが、医歯薬講座の目的の一つです。

笠間市立病院見学

6月7日(火)と8日(水)、3年生14名が笠間市立病院を見学しました。

昨年度の医師講演会の講師で笠間市立病院の副院長でいらっしゃる、稲葉 崇先生にお願いしたところ、快く受け入れてくださったことで、今回の見学が実現しました。

専門職の方が1人に生徒が1人付いて仕事内容を見学させて頂くという、かなり本格的な内容で、中には医師の先生に付いて小学校の検診の様子を見学させていただいた生徒もいました。

生徒たちは、患者さんに対する職員の方々の心遣いや工夫などを間近で見学し、それぞれが感じるものがあったようです。

忙しい仕事の中、同じ仕事を志望している高校生に対応して下さった職員の方々に、感謝します。

葵陵祭 2023 医歯薬コースモザイクアート



文化祭での医歯薬コース伝統の巨大モザイクアート。

今年度の題材は、ルイ・ダヴィッドの「サン・ベルナル峠のナポレオン」。

作成中は、どんな図柄になるかわからないのですが、すべてが合わさると大きな絵が浮かんできます。個人の力が結集して大きな成果になると似ていますね。

大きなものなので、貼り合わせは毎年苦勞するのですが、モザイクアート委員が頑張ってくれました。

好天にも恵まれ、2日間展示できました。

先生方や、他コースの生徒、来客の方々からも「かっこいい!」「すごい」と評判も上々でした。



医歯薬講座 茨城県立医療大学出張講義



6月30日、茨城県立医療大学の先生方による出張講義が実施されました。

茨城県立医療大学には4つの学科があり、医歯薬コースでは毎年2学科ずつ交代で出張講義を申し込んでいます。コース生は2年間ですべての学科の講義を聴講することができます。

今年度は、理学療法学科と、放射線技術科学科の2学科の先生をお招きしました。

「理学療法で学ぶこと:科学としての身体運動および身体動作について」滝澤 恵美先生

「みんなに知ってもらいたい診療放射線技師の仕事と茨城県立医療大学 放射線技術科学科」

安江 憲治先生

それぞれの先生方は、理学療法士や診療放射線技師の仕事内容を説明してくださいました。その仕事は多岐にわたり、働く場所も病院だけではないことを知って驚いた、というコース生が多かったようです。進路を考えるための貴重な情報になったのではないのでしょうか。

医歯薬講座について

医歯薬講座は、出張講義などでなるべく多くの学科の情報を得られるように設定されています。

現在の医療は「チーム医療」です。志望以外の分野についても知る必要がありますし、志望している分野についてもイメージだけではなく、その仕事の内容をきちんと知るのとはとても重要です。

正しい情報をもとに、広い視野でものを考えることを、医歯薬講座を通して学んでください。

医歯薬講座 千葉科学大学出張講義(実験)



7月15日(土)、千葉科学大学の出張講義が実施されました。

今回は、実験中心の、体験型講義です。

生徒は3つの講座から1つを選んで受講しました。

「在宅医療の体験実験、バイタルの変化が教える体の秘密」森 雅博先生

「免疫と健康」岡本 能弘先生

「アセトアミノフェンを探せ

～化学の力で見分ける方法～」野口 拓也先生

自分の心電図を測定し、運動や動きでどう変化するかを実験した生徒、一般家庭にあるものを使ってDNAを抽出する実験をした生徒、薬の成分を分離させて分析する実験をした生徒。それぞれ体験した内容は違いますが、どの講座でも笑顔が見られました。

終了後、どの講座でも先生方に質問をしている生徒がいました。先生方も丁寧にこたえてくださっていました。

「何を知るために」「どういう情報が必要か」「どういう手段が適切か」など、実験には考えることがたくさんあります。うまくいかない時は、そこでまた考えて改善することができます。そういう「考える体験」ができたのではないのでしょうか。

コース生は熱心に、楽しみながら実験に取り組み、とてもよい経験ができたと思います。

※数日後、実験を指導して下さった野口先生が、葵陵の医歯薬コース専用アレンジした新聞を作成して届けてくださいました。ありがとうございました。